

鋼作り隊熱意書

【なぜ砂鉄から鉄を作りたいと言いだしたのか】

地下水利用の消雪管が設置されている道路の色。

自転車のスポークと車輪の接合部に出てくるあの赤茶色。

私たちは、錆という現象から鉄を意識することが多いように思います。

鉄によって、人類は急激な発展を遂げてきました。

ですが、多くの人が鉄と出会うのは、製品という形になってからではないでしょうか。

鉄というものは重工業と呼ばれるように、巨大な設備やエネルギーによって扱われるもので、鉄工業に従事していない人は、映像で製造工程を見て「おお！」と言っている存在なのだと思っていました。

数年前、金属の町である富山県高岡市を訪れた際に、鑄造の実演を見ることができました。広場で、炉の上とテントの屋根の間にベニヤ板を渡して断熱しながらという荒業での実演でした。溶けた金属が流れ出る様子や色、熱、職人さんたちの息の合わせ方からは目が離せません。

後日、山形市銅町にも「たたら・ふいご祭り」というものがあると知り、見学に向かったのです。会場は木々が立ち並ぶ、神社の隣の公園でした。遊具もある場所です。子どもたちが走り、遊び、フリーマーケットやチョコバナナ屋さんまでが居る、考えていたよりずっと狭い所で、ずっと親しみやすく実演が行われました。職人さんたちは作業着も粋で、頼もしさがあふれていました。

そして昨年の晩秋、会津若松湊で「たたら炉製鉄実証実験」が行われると知り、見学に行きました。そこで、なんだか、もしかしたら自分たちでも挑戦できるかもしれないと思い始めたのです。鑄造は無理だけれど、砂鉄からの銑鉄作りは出来そうな気がしてきたのです。

そこから、たたら炉による製鉄について調べ始めました。

冬になっていましたが、砂浜に本当に砂鉄があるのかを確かめるために湯野浜海岸へ行きました。

・・・ありました。

今まで何度も訪れた浜なのに、砂鉄というものが全く見えていなかったのです。

ところどころに黒く固まって存在している砂鉄を、これも驚きの体験であった膨大甚大な漂流物の中から拾った小さい貝がびっしりと付いたバケツですくい、持ちかえりました。乾かしてから磁石で砂鉄を精選しましたが、約8割は砂という結果でした。

試行錯誤の工夫を重ねつつ、先日第5回目の砂鉄採取を由良海岸で行いました。

これは第4回目の採取から5か月ぶりだったのですが、その間に川の水が海に流れ出なくなっていることを発見しました。波に運ばれてきた砂が溜まり、波打ち際のほうが高くなってしまったため、川の水は横に向かったもののほとんどは淀んだ水溜りになっていました。

これも、知識としては納得していたものの、実際に目の当たりにして驚いたものです。

さて、長い前置きとなりましたが、たたら炉による製鉄実験をしたいと思った経緯と、少し活動しただけでもこれほどの驚きと新たな発見があったということをお伝えしたかったのです。

この鋼作り隊の活動は、単に「砂鉄から鉄をつくってみよう」だけではない可能性があることを知って頂きたいと思ったのです。

年齢に関わらず、以下の可能性があるかと確信しています。

可能性1：細かい砂鉄が炎の力によって鉄塊となる様子を、熱を感じながら見学することで感受性が刺激される。

可能性2：火や高温の金属が近くにあるような場合のふるまい方を知る。協働や尊重や敬意を知る。

(実際は見学者は、そんなに近くにはいないけれど、日常では無い環境でのふるまい方)

可能性3：化学への興味が生まれる／育つ／深まる。(酸化と還元・磁力)

可能性4：地学への興味が生まれる／育つ／深まる。(火山と日本。火山と砂鉄。海岸の岩の色や形、割れの具合。海流。季節と風などなど)

可能性5：環境への興味が生まれる／育つ／深まる。(海と砂浜、海と川、海から川、森、山。炭と CO2)

可能性6：鶴岡(または庄内地方)の景観とめぐみに、改めて感嘆し魅力を再認識できる。

郷土愛の醸成、地域の産物や産業への理解が深まる。

可能性7：砂鉄と神社の関係から、古代日本の神話や歴史への興味が生まれる／育つ／深まる。

出雲族と鉄。

可能性8：ものづくりの楽しさを知り、人生を豊かにすることが出来る。

このイベントは一度限りのものではなく、イベントそのものと、関わる人たち、子どもたちが一緒に育って行けるものだと考えています。鉄の生成の熟練度が上がるだけでなく、この活動から出発した関心の範囲も全方位に向かって行けるものであるからです。

便利になっていく世の中にあっても、重厚かつ濃厚な実体験をして行きたいと思っています。それらを皆さんとも共有したいと熱烈に願っています。そのための努力は惜しみません。

どうぞよろしくお願い致します。

令和2年(2020)7月1日

鋼作り隊

代表 おりがね工房 山形太一

info@origanekoubou.ptu.jp

携帯 090-7798-3722

電話 023-577-4486